

高松・まちづくりふれあいトーク～市民と市長の対話集会～ **第8回会議録**

日 時	平成19年7月24日(火) 午後3時30分～4時40分			
場 所	女木コミュニティセンター			
出席者 (市)	市長	企画財政部長	市民部長	健康福祉部次長
	病院部長	環境部次長	産業部次長	都市整備部長
	消防局次長	水道局次長	教育部次長	文化部次長
	事務局 7名			
市 民	28名			
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 資料等説明 4 意見交換 			
意見交換 市民	<p>船便の問題であるが、冬季(12月から3月)の場合、通常の6便から1便減便となり5便となる。この1便の減便に不便さを感じている。通院、介護施設の利用、買い物などに欠かせないが、強風等で欠航すると1日がかかりとなる。生活の安定のためにも、この冬季の1便減便を通常の6便で運行していただくようお願いしたい。</p>			
市民	<p>補足したい。10何年来同じことを繰り返している。過去に陳情したときがあり、このときは企業努力により1ヶ月だけ6便となったことがあるが、今は企業努力だけではできない状況であり、ぜひ行政の方でこの問題を解決してほしい。これが通勤、通学などの問題や女木の活性化のためにもネックとなっている、ぜひ協力してもらいたい。</p>			
市長	<p>昔から要望があって、実現していないのなら、どこにその問題があるのか私なりによく検証させていただきたい。単なるお金だけの問題なのか、それ以外のいろいろな要素が絡んでいるのか、良く勉強させていただき要望に添えるのかどうか検討させていただきたい。</p>			
市民	<p>女木では自助努力をしようにも、高齢者ばかりでできない状況である。約120世帯あるが、1人暮らしが46戸、3人以上の世帯が10戸しかなく、約40%が75歳以上、60歳以上は60%近い状況であり、公助に頼るほかはない。女木の活性化には、船便、高い船賃などの問題がネックとなっている。行政の方で船会社の指導をしてほしい。過疎化も進んでいるので、今まで以上に行政の援助をしていただきたい。</p>			
市長	<p>船がネックだということのようなので、現状等を勉強して真剣に考えていきたい。自助は高齢化が進んでいるので厳しいと思うので、公助の方は市としてしっかりし</p>			

	<p>ていきたい。中間には共助があるので、高齢化が進んでいるからこそコミュニティの充実を図ってもらいたい、市としても支援していきたい。</p>
市民	<p>医療関係について、救急患者は漁船で対応しているが、高波等で漁船では対応できない状況もあるので、警察船とか海上保安庁の船とかで対応できるよう考えていただきたい。</p>
市長	<p>救急患者がでた場合は、漁船の協力をいただいているが、悪天候等で漁船が出せない場合に警察船とか海上保安庁の船を出せないかであるが、システム的にはなっていないので、緊急の時に間に合うようにシステムの検討を市として検討していきたい。</p>
市民	<p>船便の増便、防災、医療関係については、島民は切実な思いがある。これ以上この島をたそがれの島にしないよう、市長をはじめ皆さんの一層のご尽力をお願いしたい。</p>
市民	<p>船便を増やさないことには、島は活性化しないが、行政に頼るばかりではなく、島民から提案をしていかないといけない。何か楽しめるものを作って、そこに住めるようにしていけないといけない。</p>
市長	<p>女木島の観光振興、地域振興をどうするかであるが、経済界の人が女木島をどうにかしたいと思いを抱いている人もいるが、具体的にはなっていない。島のほうからも何かやりたいという機運を盛り上げてくれれば、市としても支援していきたい。</p>
市民	<p>フェリーの発着場の近くに駐車場は考えていないのか。</p>
市長	<p>民間駐車場との兼ね合いがあり、市が新しく無料の駐車場を作ったり、安い駐車場を作るのは難しいのではないか。</p>
市民	<p>駐車場問題については、県の港湾課にも足を運んだが実現しなかった。漁船で高松へ行っても係留するところがない。車については置くスペースがあるのに置かせてもらえないから有料駐車場を利用することになり、なかなか女木に来てもらえない。このようなことがネックとなっている。</p>
市民	<p>防災の件について、過去にも床上浸水など災害に何回かあったが、そのとき出る廃棄物などは、船で運ぶ必要があるため、本土より復旧に時間がかかる。県のアクションプログラムにも組み込まれているので、そのような時にはできるだけ早く対応をとるようにお願いしたい。</p>
市長	<p>先ほどの港湾地区における駐車場問題ですが、港湾管理が県なので市が直接することはできないが、女木・男木で対話集会の中で駐車場問題や係留の話が出たことを県のほうに伝えていきたい。防災の問題は、離島がゆえに対策が大変なところが</p>

市民	<p>あるので、できるだけ早くプランを作っていきたい。</p> <p>休校した小学校を利用して何かできないか考えているが、市内の学校が野外教育（島での教育）などに利用することはできないか。</p>
市長	<p>何か良いアイデアがあれば言ってもらいたい。検討していきたい。学校の跡地利用については、市の中心部でも統合後の後をどうするかという話もあるが、地域で活用するアイデアも出してもらいたい。女木の小学校の利用についても教育委員会とも連携をしながら有効に使っていければと思うが、地元でも有効な活用方法を考えていただきたい。</p>
市民	<p>島では船の問題が第1である。これが活性化、過疎化の問題でもある。また、時間外での船の係留の場所を確保できるよう努力していただきたい。次に車の問題であるが女木に来る人たちは、県営の駐車場を利用しているが、費用がかさむので、無料とは言わないが、女木・男木の合同の駐車場の実現を図ってほしい。</p>